

聖書箇所 ルカによる福音書 2：8－16

- 8：さて、この土地に、羊飼いたちが、野宿で夜番をしながら、羊の群を見守っていた。
- 9：すると、主の使いたちが彼らのところに来て、主の栄光が回りを照らしたので、彼らはひどく恐れた。
- 10：御使いは彼らに言った。「恐れることはありません。今、私はこの民全体のためのすばらしい喜びを知らせに来たのです。
- 11：きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。
- 12：あなたがたは、布にくるまって飼葉おけに寝ておられるみどり子を見つけます。これが、あなたがたのためのしるしです。」
- 13：すると、たちまち、その御使いといっしょに、多くの天の軍勢が現われて、神を賛美して言った。
- 14：「いと高き所に、栄光が、神にあるように。地の上に、平和が、御心にかなう人々にあるように。」
- 15：御使いたちが彼らを離れて天に帰ったとき、羊飼いたちは互いに話し合った。「さあ、ベツレヘムに行つて、主が私たちに知らせてくださったこの出来事を見て来よう。」
- 16：そして急いで行って、マリヤとヨセフと、飼葉おけに寝ておられるみどり子を探し当てた。

メッセージ骨子：

<序論> クリスマスは夜のできごとです。多くの教会でイブの晩にキャンドルサービスをするのも、それが背景にあります。そこに天使が光とともに現われ(8節、9節)その知らせを羊飼いたちに告げたわけですが、じつは「夜」にあったということには大きな意味があります。それは私たちの人生、毎日の生活にも夜があるからです。羊飼いは当時差別を受けた最下層の人たちでした。が、2年前の震災はまだ復興のめども立っておらず、新聞を見ても家族内の殺人、いじめ、振り込め詐欺、人の冷たさ、左遷、失業、将来への不安・・・そんな私達こそ、実は暗闇の真ん中に座っているのではないのでしょうか。だからこそクリスマスの最も象徴的なものが一点の光だったのです。

<ポイント1> クリスマスによって『闇に光がもたらされた』

ベツレヘムの馬小屋にともった一本のともし火、まずこれを消し去ろうとしたのはヘロデ王でした。エジプトに逃避行し何とかその難は逃れますが、そんな **against** な状況は大人になっても変わりませんでした。「この方はご自分の国に来られたのに、ご自分の民は受け入れなかった。」(ヨハネ1：11)。闇は光を十字架に掛けました。これが闇の恐ろしさ、罪深さです。でもろうそくの火は消えても、私たちの中に入った火は消えることはありません。「光は闇の中に輝いている。闇はこれに打ち勝たなかった。」(ヨハネ1：5)

<ポイント2> クリスマスによって『義に愛がもたらされた』

義は正義・善とも言えます。義の通らない世界は私たちにとって住む価値のない世界ですが、義には寛容なところがありません。間違いは間違いとしてそれを憎み、裁き続ける性質です。そんな勢いでこっちにむかって迫って来られたら、僕らは窮地です。僕ら自身が、実は自分のことしか考えられない、義からは大きく離れた存在だと、心の中では知っているからです。義と愛が神の本質ですが、この相矛盾する二つの性質のはざままで苦しんだ天の神様が、私たちのために選んでくださった唯一の道が、イエス様の十字架でした。「罪からくる報酬は死です。しかし神の下さる賜物は、私たちの主キリストイエスにある永遠のいのちです。」(ローマ6：23)

<ポイント3> クリスマスによって『断絶に和解がもたらされた』

キリストは、クリスマスにお生まれ下さったことにより、私たちとの距離を思いっきり縮めてくださいました。偽善、やっかみ、プライド、自己防衛など、いろんなことのために闇は光を十字架につけましたが、「父よ彼らをお赦してください。彼らは何をしているのかわからないのです。」と光は祈られました。義の容赦ないムチを、愛の背中で、替わりに全部うけて下さった、ここに光と闇のゼロメートルのラインが出現したのです。「彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちは癒された。」(イザヤ53：5)

<まとめ> 僕らは「自分は正しい、あいつは間違っている、絶対赦せん。」と長い辺をあっちこっちに張り巡らして来ました。またあくまで自分の身を、傷つかない安全圏に置くことに慣れてしまっています。でも主は傷つくことを覚悟で、いやそのためにゼロメートルのところまで踏み出してくださいました。それが闇の中に輝く光、クリスマスです。僕らも、その思いで、その覚悟で周りの人に近づいてみませんか。「あなたは世の光です」と主は言われました。あなたの近い底辺、あなたの放つ光を必要としている人があなたの周りに必ずいるからです。「神は、どのような苦しみのときも、私を慰めてくださいます。こうして私たちも、自分自身が神から受ける慰めによって、どのような苦しみの中にいる人をも慰めることができるのです。」(第二コリント1：4) 以上